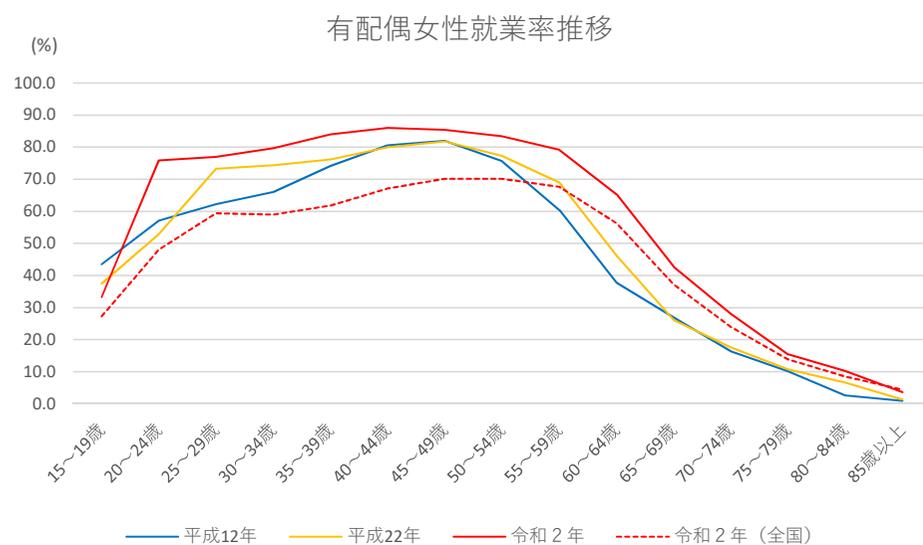


4-4 有配偶女性就業率推移

(%)

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
平成12年	43.5	57.1	62.2	66.0	74.1	80.6	82.0	75.6	60.3	37.7	26.9	16.3	10.1	2.6	0.9
平成17年	37.5	55.5	68.4	68.5	74.0	79.2	80.5	76.5	63.9	38.4	27.5	18.0	12.0	5.0	2.4
平成22年	37.5	52.8	73.2	74.3	76.1	79.9	81.8	77.2	68.9	46.2	26.1	17.6	10.7	6.6	1.3
平成27年	28.6	57.7	75.7	78.1	81.3	83.6	83.9	82.8	74.9	55.4	35.6	20.9	14.4	7.8	2.9
令和2年	33.3	75.8	76.9	79.6	83.9	86.0	85.4	83.4	79.1	65.3	42.7	28.1	15.5	10.2	3.6
令和2年(全国)	27.3	48.0	59.4	59.0	61.7	67.1	70.2	70.1	67.7	56.3	37.2	23.9	13.8	8.5	4.4

資料：国勢調査 基準日：各年10月1日



有配偶女性の就業率について、令和2年は、40歳から44歳が86.0%で最高、15歳から19歳が33.3%で最低となっている。

平成12年と比較すると、平成12年は、45歳から49歳が82.0%で最高、60歳から64歳が37.7%で最低となっており、15～19歳の区分を除き、各年代で就業率が高まってきていることがわかる。

※ここでは、「15～19歳」から「85歳以上」の15区分のうち、15～64歳までの10区分について比較や評価を行っている。